

北浦地区まちづくり懇談会（概要）

日 時	平成22年10月7日（木） 19時00分～20時40分
会 場	自然休養村センター 清流荘
参加者	46人
容 容	<p>1 北浦地区区長会会長から地区の課題等について説明・提言</p> <p>【佐藤会長】</p> <p>① 三川内地区は、地区をあげて河川の清掃活動に取り組むなど水質浄化に対して意識の高い地区であり、まずこの観点から質問したい。平成5年度から実施してきた北浦地区の合併浄化槽維持管理補助事業は、合併後の調整方針により22年度に終了することになっているが、終了後、水質の適正保全ができるのか懸念される。今後の、新たな水質保全のための取り組みについて伺いたい。</p> <p>② 「災害に強いまちづくり」をめざして、北浦地区においても、自主防災組織が三川内地区で5地区、海岸地区で2地区結成されている。また、防災行政無線は災害時の住民への重要な伝達手段であるため、全市域でのシステムの一本化、デジタル化が必要であると考えているが、その取り組み状況について伺いたい。</p> <p>③ 東九州自動車道の全線開通が間近に迫っていて、地域住民の利便性の向上、地域経済の活性化等に向け、期待が寄せられている。しかし、本線上にはサービスエリアも高速バスストップも設置されないとのことだ。高速道路の開通効果を十分活かし、地域住民の利便性を向上させるためには、北浦インター付近に高速バスストップの設置が必要だと考えるが、計画について伺いたい。</p> <p>《市 長》</p> <p>① 三川内地区は、本年度「コカ・コーラ環境教育賞」を受賞した三川内中学校のホタルの生息調査等を通じた河川環境浄化の啓発活動をはじめ地区をあげて水質浄化に取り組んでおられることに敬意を表す。本年度終了する北浦地区の合併浄化槽維持管理補助事業後の取り組みとしては、水質浄化等の意識啓発事業を考えている。</p> <p>② 災害時の住民への情報伝達手段として、防災行政無線の整備充実はたいへん重要だと考えており、現在、庁内に検討会議を設置して、システムの一本化、デジタル化等を含め検討を進めているところである。</p> <p>③ 東九州自動車道は、社会実験路線に入っているもので、おそらく全線無料化の方向で行くものと考えているが、高速バスについては、地域住民ニーズがどれだけあるかで方向性が決まる。そのニーズという点からすると、延岡⇄大分間の高速バス「わかあゆ号」は、22年3月末に休止になっている。住民ニーズがなくて、バス会社としては採算が合わないから休止したのだと思う。まず、高速バスを走行させることが先だと思うが、高速バスストップの設置についても、住民のニーズが基本であると考えているので、必要があると判断すれば、関係機関に申し入れしたい。</p>

2 意見交換

【意見】

防災行政無線は、延岡市の全区域の一本化を前提とした議論になると、事業がなかなか前に進まないと思う。県内の防災行政無線整備への取り組み状況を見ると、地区単位での整備から取り組んでいる市町村もあるようだ。たとえば北方地区、北浦地区、北川地区とか、地区別に整備計画を立てていく考えはないか。

《市長》

現在、防災行政無線システムの本体化、デジタル化に向けた庁内検討会議を設置して、システムのあり方・予算等を含め検討を進めているところだが、その検討会議の中で、整備計画を市全区域を対象として進めるのか、あるいは地区別で進めるのかについても協議していくことにしている。

【意見】

- ① 北浦地区でも公共下水道整備事業を進めてほしい。また、北浦地区では、終了する合併浄化槽維持管理補助事業後の取り組みも大事だが、個別に考えた場合、生活保護世帯での公共下水道への接続工事や、合併浄化槽設置についても支援してほしい。
- ② 不況の中で、就職先がなくて困っている。特に若い人が地元に残らないので、地域の高齢化が進んでいる。雇用対策へのさらなる取り組みをお願いしたい。

《市長》

- ① 公共下水道整備事業は、多額な予算を要する事業で、国からの補助を受けながら計画的に地区ごとに順次進めているが、なかなか一気に整備できない。また、生活保護制度は、国の制度に基づいて支援しているもので、世帯ごとにそれぞれ事情が違う。公共下水道への接続や、合併浄化槽設置等についても個別に対応していくことになると思う。
- ② 少子高齢化が進んでいるのは北浦地区だけではないと思う。全国的な問題だ。この打開策はなかなか難しいが、私は、雇用対策の面から、企業誘致もちろん必要だが、みんなが智恵を出し合うことで、既存の産業を振興して「もうかる農業」「もうかる林業」「もうかる水産業」など「もうかる産業づくり」をめざす取り組みを進めている。これによって、働く場が確保され、若者の地域からの流出に歯止めがかかるのだと考えている。たとえば、直海地区は、若者が多い、こどもも多い。これは、直海地区の水産業が「もうかる水産業」だからだ。小さな既存産業であっても、智恵を出し合って、このように「もうかる産業づくり」に取り組んでいくことで、元気のある地域づくりを進めていきたい。

【意見】

4年前に北浦に帰って来て、阿蘇地区で会社を経営しているが、金融機関の利用で困っている。ネットバンクを利用することが多いが、県内の企業やリース会社の契約等はネットバンクではできない。北浦地区に支店等がある金融機関は漁協、農協、ゆうちょ銀行の3つに限られているが、宮銀、宮崎太陽銀行、信用金

庫等にも口座開設して、利用する必要性も出て来ている。漁協も支店が2店から1店に統合され、北浦地区では新たな支店開設は困難な状況であろうと思い、金融機関にATM開設ができないか相談してみたが、利用件数が1日300件以上が開設の条件だとのことで、ATMの開設も難しいようである。川島町から佐伯市蒲江町までには1軒もコンビニがない。この区間の買い物事情を改善するためにも、市が、ATM設置を誘致条件に、北浦地区にコンビニを誘致することで、北浦地区の会社経営者の金融機関利用を支援できないか。

《市長》

北浦地区で会社を営んでいる方の金融機関利用の不便さについては理解している。金融機関も厳しい経営状況で、コストが見合わない地域には支店やATM機を設置しない。解決策として、市が、ATM設置を誘致条件に、北浦地区にコンビニを誘致できないかという提案だが、たとえば、農協と漁協が共同運営している「ふるさと市場」等の直売所にATMを設置することを市が間接的に支援するという方法は考えられる。しかし、民間の商業店舗、しかもチェーン店を市が直接誘致する方法は困難だと思う。可能かどうかは分からないが、やはり公共性のある準公共的な性格を持つ民間機関がATM設置に向けて動くことがまず先だと思う。

【意見】

余談だが、今日のNHKの衆議院本会議中継で社民党の重野安正議員（大分2区選出）と菅総理との間で、林業再生に関して期待の持てる質疑が行われた。もし、ビデオ録画があれば視聴してほしい。

先月末、遠方の友人が北川町内の旅館に泊まった際、シカの煮込み、アユの塩焼き、味噌焼き、ツガニ等を食べ、大満足して帰った。特に、シカの煮込みがおいしかったと言っていた。先日、NHKでも、道の駅「北川はゆま」のシカ肉バーガーを放映していたが、シカ肉はなかなか手に入らない。もっと手軽に手に入るようになって、料理方法が広まると、多くの人が食べるようになると思うのだが。

《市長》

今日、NHKで放送されたという衆議院本会議での林業再生に関する質疑の様子は見てないので、コメントはできないが、林業再生が良い方向に向かって行けばよいと思う。

シカ肉バーガーは、シカなどの獣害がたいへん深刻な状況の中で、その打開策の一つとしてのシカ肉料理を広めようという取り組みである。わたしも試食してみたが、おいしかった。しかし、まだ試食の段階であるので、今後さらに研究して、おいしい料理方法が出てくることを期待している。

【意見】

三川内小学校のPTAの一員だが、児童数が減少していて、学校の存続が気掛かりだ。経済効率・市場主義だけで学校経営を考えるのではなくて、地域の小規模校も存続できるような総合的な地域支援策を実施してほしい。

《市 長》

確かに、県内各地で小規模校の統廃合が続いてきた。しかし、これは経済効率・市場主義の原理だけで行っているわけではない。地域に根付く学校という面など総合的視野に立って考えているのだが、限られた予算の中で、学校経営を含め、たとえば地域の高齢者福祉対策などさまざまな施策との間で優先順位を見極めながら、これまでも結論を出してきた。

三川内小学校存続に対する要望があったことは教育委員会に伝えていくし、市としても、総合的な地域支援ができないかを検討していきたい。

【意 見】

今度新たにセンコービジネスサポート（SBS）フォーラム延岡や岸上蒲鉾北延岡工場などが、企業立地促進条例の適用を受け、指定書が交付されたという報道を見た。企業が誘致され、地元の雇用が確保されて、たいへん喜んでいるが、雇用される男女比率を見た場合に、採用される社員は圧倒的に女性が多いという気がしている。もっと男性の雇用比率が確保されるようにしてほしいと思う。

《市 長》

直近のハローワーク延岡管内の有効求人倍率は0.35で、県内では高鍋、日向に次いで良くない数字だ。この状況を少しでも改善していくため、男女問わず雇用の確保を進めていかなければならないと考えているが、確かに、今回、企業立地促進条例を適用して指定書を交付したSBSフォーラム延岡などは女性の採用が多かったと思う。

これは、これまで女性の事務職に対する就職希望が多かったが、その事務職に対する女性の有効求人倍率が0.1程度しかなくて、特に悪かった状況を改善するためだった。現在、市内経済への波及効果を考え、下請けへの部品発注もあり、男性の特性も有効に活かせる製造業のような企業の誘致を目指して、クレアパーク延岡工業団地第2工区の整備を推進しているが、わが国の経済状況は厳しくて、企業誘致を働きかけてもなかなか手を上げる企業がない状況だ。しかし、これからも、雇用の確保を目指して、気を引き締めて企業誘致にも取り組んでいきたい。

【意 見】

北浦地区に住んでいるが、住宅関係の仕事をしていて、できれば延岡市の中心街に事務所を開設して、顧客に住宅の内容を説明できるような場所がほしいと思っている。空き店舗などが利用できる制度があれば教えてほしい。

《市 長》

延岡の中心街に新しく事務所を開設したいが、商店街の空き店舗を活用できないかとの質問だが、連絡先を教えていただければ、具体的なことについては、担当の商業観光課から連絡させたい。

※ この質問をされた方に対しては、翌日、担当の商業観光課から連絡をとり、商店街空き店舗活用支援等について説明を行った。

【意見】

私自身のことではないが、地域の高齢者から相談を受けたので、この場を借りて質問する。古江地区を中心に「北浦元気塾」という高齢者グループが住民参加型のミニデイサービスを実施しているそうだが、三川内地区からも参加希望者がいる場合、マイクロバス等での送迎はできないのだろうか。

《市長》

高齢者の方々が、地域の中から積極的に出て行って、他の地区の人たちと交流を深めることはよいことだと思う。どのようにしたら利用が可能か、また送迎ができるのか等を含め具体的なことについては、後日担当課から連絡させたい。

※ この質問をされた方に対しては、翌日、担当の北浦町総合支所福祉保健課から連絡をとり、ミニデイサービス利用等について説明を行った。

以 上